

JIS 化決定

紫外線硬化樹脂及び熱硬化樹脂の硬化収縮率連続測定方法

Continuous measuring method of curing shrinkage ratio for plastics

日本工業標準調査会（工業標準化法に基づいて経済産業省に設置されている審議会）は、中堅・中小企業から提案のあった3件について、「新市場創造型標準化制度」を活用して標準化を行うことを決定しました。今後、中堅・中小企業等の優れた技術や製品の標準化を進め、新たな市場の創出につながることを期待されます。

1.概要

標準化は、市場での信頼性向上や差別化を通じて、新しい技術を用いた市場創出に大きな効果があります。特に中堅・中小企業にとっては、戦略的な標準化が重要です。

経済産業省では、新市場の創造や産業競争力の強化につながる戦略的な標準化の推進のため、平成26年5月に「標準化官民戦略」を策定し、本戦略に基づき、同年7月に、中堅・中小企業を含む企業又は企業グループが保有する優れた技術や製品について、従来の業界団体でのコンセンサス形成を経ずに、迅速な国内標準化（JIS化）や国際標準（ISO/IEC）提案を可能にする「新市場創造型標準化制度」を創設しました。

提案テーマ提案者【所在地】

(1)硬化樹脂の硬化収縮率連続測定方法に関する標準化

(株) アクロエッジ【大阪府】

パートナー機関：(株) 池田泉州銀行

2.今後のスケジュール

今後、（一財）日本規格協会が提案企業を含めた原案作成委員会を構成し、標準化の原案作成が行われます。原案作成後、JISCにおいて審議され、国内標準（JIS）となります。

担当

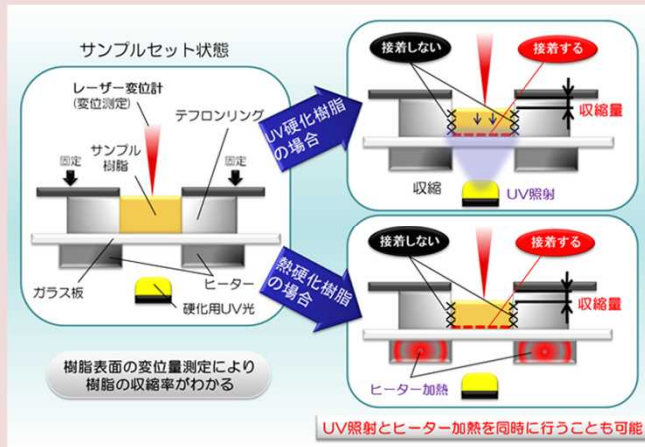
産業技術環境局 国際標準課

公表日

平成28年10月11日(火)

硬化樹脂の硬化収縮率連続測定方法に関する標準化

【測定原理】



【本標準化で使用する装置の特徴】

- 1. 反応前→中→後の全過程の連続測定**
UV硬化樹脂・熱硬化樹脂・エポキシ樹脂・UV接着剤・UVインク・コーティング・ワックス等の硬化に伴う硬化収縮収縮物応力を連続測定
- 2. ヒートサイクル測定**
UV照射→加熱→冷却など昇温、降下温度の熱プロファイルをプログラムにより自由に組み合わせ設定可能(常温～180℃)
- 3. 環境の再現**
製品製造過程において様々な熱が加わる場合や、長期経時における様々な環境に置かれる製品が受ける収縮物収縮物応力を再現
- 4. 樹脂表面の温度変化測定可能**
- 5. サンプル量は少量(1cc)程度でOK**
- 6. 特殊測定技術の必要なし**

【装置外観】



【装置仕様】

硬化収縮物測定用レーザー変位計	1) 繰り返し精度 2μm 2) 赤色半導体レーザー655nm(可視光) 3) レーザ class 1(FDA CDRH Part1040.10) 4) 出力220μW
ベースライン測定用レーザー変位計	1) 繰り返し精度 2μm 2) 赤色半導体レーザー655nm(可視光) 3) レーザ class 1(FDA CDRH Part1040.10) 4) 出力220μW
加熱ヒーター	1) 150W × 3本(計450W)耐熱性500℃(設定最大温度 180℃) 2) 計測用温度センサー K熱電対 3) 安全リミット用温度センサー K熱電対

樹脂硬化収縮率応力測定装置 (CUSTRON)

データ処理ソフト付
ノートパソコン



USB接続



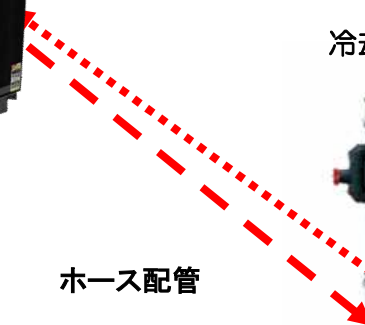
タッチパネル制御装置

測定部本体

冷却水循環装置



ホース配管



THANK YOU

AcroEdge

株式会社 アクロエッジ

〒573-0164 大阪府枚方市長尾谷町1丁目70-1

Tel. 072-836-0031

Fax. 072-836-0033

E-mail. office@acroedge.co.jp

<http://www.acroedge.co.jp>